

地域と連携した避難訓練

名古屋市緑区有松南
グループホーム「かがやき」
ホーム1 管理者
松崎幸子

はじめに

2000年の介護保険施行に伴い設置された認知症グループホームは当初800施設弱であったが現在は1万施設余りにまで増加している。その中で認知症グループホームの火災による大きな被害の報告も後を絶たない。2006年長崎県で7人、2009年に群馬県で10人、2010年には札幌で7人、そして最近では今年2月8日に長崎県で4人の死者を出した火災報道は記憶に新しい。

認知症グループホームとは入所対象となる方が認知症という病気であり、そして施設としては病状を進行させないためにできる限り一般家庭での生活に近い環境・サービスを提供できる場所である。しかしながら、家庭で家族との生活が困難な対象者5～9人に対し、夜間帯の職員配置は1人である。また、対象者の特徴として被害状況の理解やコミュニケーションも困難である。設備的な防災対策として規模によりスプリンクラーの設置を義務化して、各都道府県においても補助金支給をしている。だが、消防庁の報告では全国6割の認知症グループホームで設置がされていないという。しかしながら整備するには設備金額だけではなく、入所者への配慮の必要やそのための人員確保も必要である。また、緊急時の対応としてはスプリンクラーの設置のみではなく、日頃の避難訓練がとても重要である。

当施設は2003年開設の1ユニット6人の2ユニットのグループホームである。2012年に名古屋市の補助金を受け、スプリンクラーの設置【写真1】を行った。また、夜勤も2ユニットで1人の夜勤と1人の宿直(介護保険減算)の対応である。このような体制の中、入所者の安全を確保するためには職員のみでの対応では困難であると考え、日中の避難訓練はもちろんであるが、夜間を想定した避難訓練の実施を平成2008年より始めた。そして、運営推進会議で家族や地域の方のご意見を伺いつつ改善をした。



写真 1

今回はこのように運営推進会議での参加者の意見を参考に改善してきた内容や地域連携しながらの避難訓練の様子を紹介し、これまでの経過と今後の課題を報告する。



写真 2



写真 3

1. 地域連携内容と実際

- 1) 避難訓練前には、ご近所を一軒ずつ回って、参加の呼びかけをして地域の方の参加が1名あった。(2010年)
- 2) 運営推進委員会には地域の役職者の方がいらっしゃるのので、避難訓練の様子を知っていただくために見ていただけるよう声をかけ来ていただく。
- 3) 運営推進委員会議においてメンバーの地域役職者に避難訓練参加呼びかける。
- 4) 地域の消防団へ避難訓練参加を呼びかける。
2)、3)、4)により
2010年10月8名、家族、運営委員、消防団長、いきいき支援センターの方参加。
2012年11月10名、家族、運営委員、消防団長、いきいき支援センターの方参加。
- 5) かがやきニュース(広報新聞)を毎月、町内へ職員と入居者の方で配布する。
- 6) かがやきの駐車場に掲示板を作成して、かがやきニュースを掲示する。
- 7) 町内会に参加して、公園の清掃活動に参加する。
- 8) こどもの日には子どもたちに施設に来ていただき、こどもの日のお祝い会【写真2参照】をする。
2009年15名ほど参加「おこしものづくり」
2010年5名ほど参加「紙飛行機大会、ういろ食べよう」
2011年2名ほど参加「紙飛行機大会、クッキー食べよう」
- 9) 地域の空き缶の保管場所として提供する。
- 10) 地域保育園の敬老会に参加する。

2. 避難訓練の重点内容

- 2010年10月：入居者の方の介護度があがり、2階入居者の方をエレベーター使用せず、誘導できるよう留意。
- 2011年7月：地震への心配から、設定を地震が起きて火災発生の避難訓練。入居者さんの心配なども聴取。災害伝言ダイヤル(171番)の活用。
- 2012年2月：スプリンクラー設置後の説明会を職員・入居者の方とともに実施。
- 2012年4月：地震を夜勤設定にし、初めて自動通報装置を使用。防災頭巾など、そろえた用品活用。
- 2012年11月：夜勤帯の火事設定。初期消火や消防への通報ルートの再確認。

3. 運営推進委員会における改善意見

運営推進委員会のメンバーには家族、地域役員、学識経験者が参加されている。2011年3月の会議には15名の参加者があり、実際に夜間想定をした避難訓練を実施しての報告と、職員として課題になったこととして。これらについて意見を伺った。そして、戦時中の生活を知ってみえる入所者の方であるので防空頭巾などを準備してはどうか。誰にもわかるようにそこにはかがやきとネームを入れる。ソーラーライトの設置、誘導灯の準備、両手が空くようにヘルメット用ライトや職員がわかる蛍光バンドの準備などの提案が出され、早急に対応した。

2013年2月の会議では参加者14名。その中の地域役員の方からは2年がかりで夜間訓練の実施に向けて職員教育から地域への啓発も含め取り組んでみようと発言が聞かれた。

4. 施設として環境改善点

2011年2月：夜間避難経路の確保のためにソーラーライトの設置、車椅子利用者の増加からスロープの設置【写真4,5】

2012年4月：利用者の自覚を促すことと、頭部の安全確保のために頭巾【写真6】の作成。

また、避難時の誘導がわかりやすいように誘導灯【写真6】の購入。夜勤者・宿直者は笛付きの携帯電話【写真7】を所持。



写真4



写真5

5. 現在抱える課題

現在抱える課題として大きく2つがある。1つは地域との連携のあり方である。地域の子どもたちも成長し、かがやきに来てもらうことが難しくなっている。私たちから出かけることも1つの工夫に思い、2012年は敬老



写真6



写真7

会に参加した。また、運営推進委員会のメンバーの声聞きで、空き缶の保管場所にもなったことから目の前に立つマンションの住人と知り合う機会となった。今回のテーマの避難訓練のためだけでなく、入居者の方や生活を知っていただくためにも、地域とどのようにつながっていくかを考えていきたい。

2つ目は、入居者の高齢化、認知症症状の進行への対応である。避難訓練の回を重ねる度に、避難できない方が増えている。「嫌だ」「何で?」「起きたくない」という気持ちであった。理解をしていただくことが難しくなっている。身体機能も低下することから、エレベーターは使用せず、階段が降りられない方たちをどのように1階へ降りていただくか、最初は2人の職員が前後で支え、次には腰にシーツを巻き、抱えるようにして降りるとしてきたが、狭い階段では困難を要した。棒にシーツをまいて担架のように使用する、2階から滑り台のようにするなど意見もいただいたが、安全確保が困難で良い案が実施できていない。ベッドで休んでいる方を火元から遠ざけるといっただけでも難しい課題である。

おわりに

今回、避難訓練をテーマにこれまでの地域との関わりを振り返ってみた。地域の中のグループホームということ意識して「かがやき」の様子を発信していることから少しずつ関係性ができていることが実感できる。

今回、明らかになった2点、①地域との連携の課題は引き続き努力して、②2階の入居者の避難方法を早急に対応できるよう取り組んでいきたい。